

# かかりつけ薬局における 検体測定的重要性と今後の対策

○ 巽清<sup>1</sup> 山崎裕己<sup>2</sup> 青山翔太<sup>3</sup> 飯田靖子<sup>4</sup> 安田光<sup>5</sup> 瀧口祐介<sup>3</sup> 西澤英之<sup>2</sup>  
(1) (株)関西メディコ、2サン薬局天理中央店、3生駒店、4御所店、5郡山店

## 目的

かかりつけ薬局・薬剤師が注目されている現代において、生活習慣病患者の健康管理は薬局として重要な業務の一環となってくる。患者の健康管理や治療成果を確認する上でも検体測定の役割は更に重要になってくると考えられる。更なる検体測定の価値を高める為に今までの利用者の傾向や検査結果を分析し、今後の課題や対策について検討した。

## 調査方法

2015年9月7日～2016年9月30日の間で常設の検体測定室を有する5店舗において、自己採血による血糖値、コレステロール値を測定した444回の受検者データを集計し分析した。

## 検体測定の手技

①受検者に説明し  
申込書兼承諾書に記入して頂く



②採取手技の一連の流れを  
イラストを用いて説明する



③血液を採取し  
機械にセットし測定する

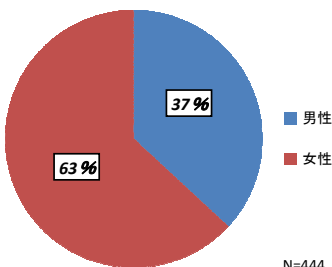


④検査結果を説明し  
生活習慣等の相談に答える

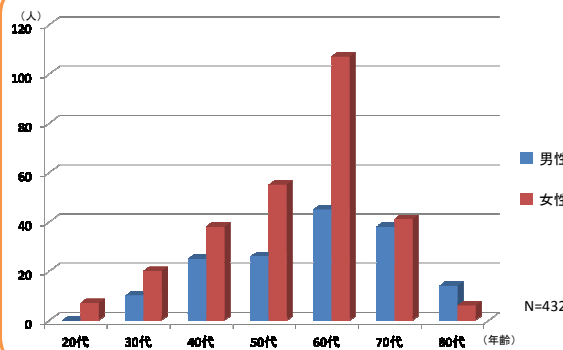


## 分析結果

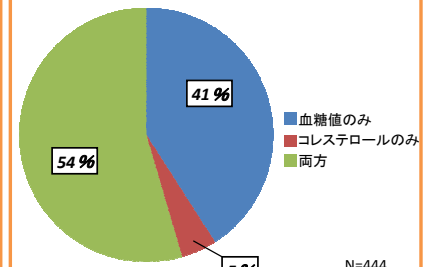
受検者の男女割合



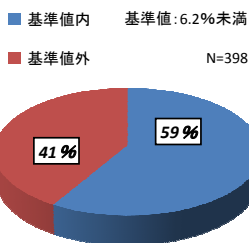
受検者の年代別割合



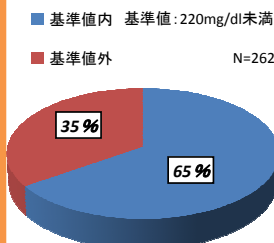
検体測定の測定項目



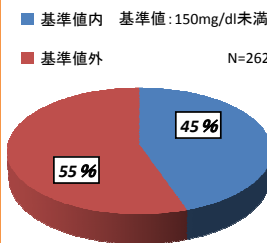
HbA1c



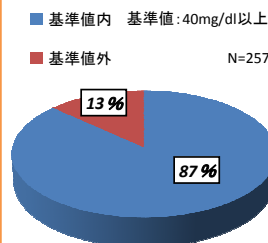
総コレステロール



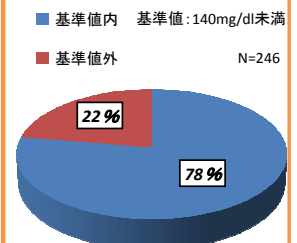
中性脂肪



HDL-コレステロール



LDL-コレステロール



## 考察

- ・ 検体測定の受検者は50代～60代の女性が多かった。主婦やパートの割合が多い世代でもあり薬局営業時間内に利用しやすい事が推測出来る。
- ・ 男性では60代～70代で受検者が増加。会社を定年退職した世代も自分の健康に強い関心を持っていることが考えられる。
- ・ 中性脂肪の測定には食事の影響が出やすい。今回の結果にも食事の影響が反映されている可能性が非常に高い。次回は絶食後に受検してもらうよう受検者に説明をする必要がある。
- ・ 計測の結果、血糖値では4割、コレステロールの項目では1～3割で基準値を外れる結果が出ている。受検者が糖尿病薬や脂質異常症の薬を服用している場合であれば、その治療効果についても説明する事が可能。また受検者に受診勧告を行うことによって重大な疾病を未然に防ぐ事も出来る。
- ・ かかりつけ薬局として検体測定を行う事により薬の治療効果だけでなく、食生活や運動などの生活習慣の改善にも相談にのる事が出来る。定期的に検体測定を行ってもらうことで健康維持に貢献でき、患者の今後のQOL低下の予防にも繋がってくると考えられる。
- ・ 病院やクリニックでの血液検査とは違い、薬局の検体測定では短時間で測定でき、気軽に測定出来る事が受検者から好評頂いている理由の一つである。今後は週末の地域イベントなどにも参加し、薬局での検体測定の事を様々な世代の方に伝えていく事も同じように重要になってくると感じた。